

記者懇談会

日時 令和5年10月25日(水)

午後1時から

場所 市役所3階 大会議室

1 市長あいさつ

記者の皆様には、日頃より越前市政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

先週末は、市内で紫式部に関する様々な催しが行われました。

第34回源氏物語アカデミーでは、特別講演が行われ、一般の方も多くご来場をいただきました。日曜日には、紫式部公園にて私も蹴鞠をやらせていただきました。京都から保存会の方が来られたのですが、見ていた時は、出来るなと思っていましたが、実際、やってみると、コントロールが難しいのと足が動かなかったのが、若干悔いが残りました。

その他にも、武生東高生徒による十二単の着付け体験、紫式部をテーマにした衣装をまとった市民モデルのファッションショー、そして、市民劇団の方のステージなど、紫式部のことが市民の中に徐々に広がっているなど、大変うれしく思っています。

引続き、大河ドラマ放映、新幹線開業に向け、市を益々盛り上げていきたいと思っているので、報道機関の皆様も取り上げていただきますようよろしくお願いいたします。

2 発表項目

1 男性職員の育児休業について(資料1)

子育て支援に国も県も力を入れています。

民間企業のアンケートでは、育児休業を取得した男性の割合が30.8%で、調査開始の2018年以来、過去最高になったとのこと。

政府が6月13日に閣議決定した「こども未来戦略方針」によると、国・地方の公務員に係る男性の育児休業取得率を、令和7年までに1週間以上の取得率を85%、令和12年までに2週間以上の取得率を85%という目標を掲げています。

本市での男性職員の育児休業の取得状況は、令和元年度は6人中1人の16.7%であったものの、令和4年度には、子どもが生まれた男性職員12人中、年度内に11人が育児休業を取得しており、昨日、未取得であった1人が取得を開始し、100%を達成しました。

令和5年度についても、現在、2人中2人が取得しており、100%でございます。

平均取得日数は、令和4年度は、78.5日で、令和5年度は、現在のところ平均167日で、私は100%、100日以上を目標に掲げ、進めているところであり、市役所においては、かなり定着してきたと思っています。

市内の企業においては、様々な事情があると思いますが、市役所において率先実行することで地域に広がれば良いなと思っています。

一方で、人出不足や特定の人がいないと仕事がまわらないというようなことで難しい面も

ありますので、職場の環境づくりも必要であります。

なにより、少子化対策、子育て支援の両面から男性職員の育休が普及し、一緒に子育てをするというのが当たり前の社会にしていかなければ、これからの時代には越前市もやっていけない、民間企業もそういった時代になってきているだろうと思います。

(育児休業を取得した職員から感想等)

2 越前市×国立印刷局 企画展“Kamiwaza ～職人たちの神技 すかしの世界～”

(資料2)

令和6年にお札のデザインが20年ぶりに大きく一新されることから、お札のふる里越前市において、国立印刷局の特別協力のもと、開催することとなりました。

越前和紙は、お札の歴史と深いかかわりがあるということで、その内容をお知らせしたいと思っています。

内容としては、すかしの技術というのが、実は越前和紙の由来であって、それが、今も世界最高峰といわれる偽造防止技術に繋がっているということを知っていただきたい、1500年の歴史をもつ越前和紙の技術が今の最新の技術においても使われていることをお伝えしたいと考えています。

国立印刷局の工芸官の方々が作製された、すき入れ作品(すかし入りの作品)を展示し、紹介していただきます。

また、越前市ゆかりの人物や、3つの伝統的工芸品の職人たちをモデルにした作品も新しく作製していただき、今回の企画展で初披露します。

オープンは、11月22日で、国立印刷局理事長をお招きし、国会議員の皆様や地元関係者の皆様にも参加いただく予定です。

セレモニー終了後は、国立印刷局の現役工芸官に、どういったことが難しいか、新しい紙幣についてどういった工夫をしたかなども含めて聞いていただければと思っています。

なかなか工芸官は世間に出ることがなかなかありません。私も視察に訪れた時に初めて知ったので、お話を聞いていただくと、これまで県民・市民が知らなかったことも知ることができるいい機会となるとと思っています。

3 市総合防災訓練(資料3)

11月19日(日)に西地区の防災訓練(兼市総合防災訓練)を武生中央公園で開催します。

南越消防組合総合訓練との合同開催でもあり、多くの方が参加する予定です。

今回は、地区住民の避難訓練に、武生西小学校児童の訓練参加の協力を依頼し、親子で避難経路の危険箇所の確認を行いながらの避難訓練を計画しています。

また、西地区は、とりわけ外国人市民が多く在住することから、外国人市民防災リーダーと協力して外国人市民の訓練への参加を進め、外国人市民にも十分理解できるような避難訓練、体験訓練を実施します。

その他、各防災体験ブースにおいて、起震車体験や水消火器体験、災害時の非常用電源として活用できる電気自動車の給電デモなども行います。

4 質疑応答

【質疑】技術職の職員はどうしても育児休業をとれないと思うが、技術職員の育児休業取得の状況は。

【回答】職員が育児休業を取得する場合は、代替として、会計年度任用職員を雇用するのですが、技術職やその他の専門職の職員の代替の場合、募集はするが、なかなか応募がないので、正職員で対応せざるを得ません。人材確保の面からも、採用試験等を含め、確保に努めていきたいと思っています。

令和4年度の育児休業対象者12名のうち、技術職員は3名おりました。

【質疑】令和5年度の育児休業取得平均日数が約160日となっており、人数が2人なのでなんとも言えないが、実際、2人ともこれくらい取得しているということですね。

【回答】はい、そのとおりです。私は、1週間でも100%という議論ではなくて、しっかりと2か月、3か月取ることを前提に、取得率よりも取得日数の方が重要であると考えています。

課題はありますが、相当掛け声をかけてやらないといけないと思っています。私が言うことによって、職員も取るものだという意識になっていくと思っています。

【質疑】育児休業取得にあたっては、周りの雰囲気づくりが重要だと思うが、育休中にその人の仕事をカバーするということで、仕組みを何か設けている訳ではなく、皆さんの意識でカバーしていると理解すればよろしいでしょうか。

【回答】仕組みとしては、育休代替職員として、会計年度任用職員を雇用しています。それでも、スキルもあるので、周りもカバーしなければならないし、課だけでカバーできなければ、市全体でカバーすることも状況によっては必要だと考えています。

【質疑】企画展での紙幣の撮影はNGですね。

【回答】細かいルールについては、事前に説明します。国立印刷局のほうで、報道機関が撮られた写真等を個別に判別いたします。